

後期日程

平成 30 年度入学試験問題(後期日程)

小論文

教育学部

学校教育課程

幼小連携教育コース

-解答上の注意事項-

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙 1 枚と下書き用紙 1 枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

問 右の文章は、河合隼雄著『子どもと悪』（岩波書店、1997年）の中の、「身体性」について述べられている箇所からの抜粋である。

文章を元に、身体性をどのように教育実践に取り入れていくのかについて、あなたの考えを800字以内で具体的に述べなさい。

先進工業国においては、人間の自我がその周囲のものをコントロールする、ということがきわめて重要なことになる。人間は種々の機械をコントロールして、自分の好きなときに好きなところに行きたくらい早く行ったり、巨大なものを好きなように動かしたり、人類が自然のなかに暮らしていたときから考えると、想像を絶するようなことができるようになった。従って、これまでは自分の身体を使っているいろいろなことをしていたが、身体代わりに機械を操作することによって、それ以上のことが出来るようになった。簡単な例をあげると、今から百年以前に、日本人が歩行していた距離と、現在のそれを比較しても、比較にならぬほどわれわれは自分の足で歩くことが少なくなっている。

このようなことが多く積み重なって、現代人は自分の身体から相当に切り離された存在になってしまっている。自分の生きていく身体という感覚が弱くなり、自分が生きていくということは、自我が何を認知し何を考えているか、ということのみに集中してくる。つまり、頭でっかちの人間になる。そして、大人たちは、子どもがそのように早くなるように努力するほど「よい子」だと思いこむ。

裸で走りまわると「悪い子」に分類されてしまう。しかし、そのためにわれわれは身体性ということを置き忘れてしまった子どもをつくっていないだろうか。最近鼻汁をたらしている子を見ることは、ほとんどなくなった。しかし、そのために子どものアレルギー疾患が増えているのではないかという医学の説は、そのまま心のことに応用されるのではないか。後に論じることになるが、日本のいじめが極端に陰湿化することの要因のひとつが、このようなところにあると思われる。

身体性との関連で問題となる「性」のことも、それをコントロールすることの方に重点がおかれすぎる性教育がなされているのではないだろうか。科学的事実を教え、その知識を生かすことによって、エイズの危険を防ぐことが性教育の核心と考えるのは困ったことである。もちろんこのことも大切であるが、それによって「性」に関する教育ができたと思うのは安易すぎる。